

12月18日 ルカによる福音書1章26～38節 今日の説教から

説教題：「神にできないことは何一つない」

今日の個所の中心人物であるイエス様の母マリアは、教派によっては「聖母マリア」として崇敬の対象にもなっています。時に「原罪のない存在」として、時に「イエス様に祈りをとりなしてくれる存在」として、マリアは崇敬されてきました。ただ、私たちプロテスタント教会ではマリアに対してそのような「神様に対する崇敬」に近いものは持っていません。あくまでもマリアは普通の人間であり、むしろ普通の人間がここまでへりくだって神様に従うことが出来る事に私たちは希望を見出すことが出来るのです。マリアが今日の個所で「わたしは主のはしためです」と語るその姿が、もしマリアが全く罪のない天使のような存在であったとすれば、神様の言葉を受け入れることに何の支障もないことでしょう。

しかしそうではなく、マリアが普通の年若い女性であったのであれば、自分の都合や家庭の都合を考え、結婚していないのに子供が出来てしまうという恐怖や、その事を許嫁のヨセフに知られたら離縁されてしまうのではないかという怖れを感じたはずです。離縁されて実家に戻された場合に子どもをちゃんと育てていくことが出来るのか、という将来への不安もあり、そのすべてを考えて、それでも「神様の言葉に従う」という決断をすることが出来たマリアの信仰は、それは間違いなく、私たちが目指すべき一つの理想の信仰の姿なのです。

来週私たちは礼拝後に江刺保育園の子どもたちによる生誕劇を見ることとなります。私たちにはおなじみの物語なのですが、私たちは生誕劇を見る時、「どこ」にいるのでしょうか。マリアの苦悩や、それでも神様に従った従順さに自分の人生を重ねた場合、生誕劇は「私の物語」になります。女性の立場が尊重されない時代を生きたマリアのその生きざまは、自らを主張するのではなく、神様の計画が成就することを優先したその歩みは、キリスト者の一つの模範として私たちの信仰の歩みを導いてくれます。

または、三人の博士や羊飼いに自分の人生を重ねた場合、生誕劇は「私のための物語」になります。「あなたがたのために」救い主がお生まれになった。私たちのために、私たちが神様の言葉を信じて、神様のために生きることが出来るように、イエス様が私たちの主であると信じる事が出来るように、イエス様はこの世に生まれました。私たちに導く王が与えられた、私たちに救う主が与えられた。そう受けとめることが出来た時に、生誕劇は「私たちのための物語」となるのです。

そして、もし私たちが生誕劇で演じられる天使に自分の人生を重ねるのであれば、生誕劇は「私たちが伝える物語」となることでしょう。マリアの前に現れて「おめでとう」と伝えたように、イエス様のことを知らない羊飼いたちの前に現れて、「あなたがたのために救い主が生まれたのです」と伝えたように、私たちもイエス様が誕生したその喜びを「伝える側」になることが出来るのです。その時、私たちは神様から派遣されている大きな喜びの中で、まさに天使のように生き生きと光輝く人生を送ることが出来るのではないのでしょうか。

私たちは、どの役になることも出来ます。どのような役を神様に期待されているのか、どのような業を行うことを期待されているのか、神様の計画のすべてを私たちは知ることは出来ません。しかし、私たちは「出来ない事は何一つない」その力に支えられて、今日も信仰の道を歩んで行くのです。神様の力に支えられて、このアドヴェントの最後の一週間を、クリスマスまでの歩みを、共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書 1 章 26～38 節

- 26:六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」
- 34:マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。